

IV 野菜類

1. 野菜類

・殺菌剤

FRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
M1	(銅水和剤) I C ボルドー 6 6 D	散布	-	-	野菜類
	Z ボルドー	散布	-	-	野菜類 (キャベツを除く)
	コサイド 3 0 0 0	散布	-	-	野菜類
	ドイツボルドー A	散布	-	-	野菜類
NC	カリグリーン	散布	収穫前日まで	-	野菜類(トマト、ミニトマトを除く)
-	サンクリスタル乳剤	散布	収穫前日まで	-	野菜類(なす、トマト、ミニトマト、しゅんぎくを除く)
NC+M1	ジーファイン水和剤	散布	収穫前日まで	-	野菜類(なすを除く)
NC	ハーモメイト水溶剤	散布	収穫前日まで	-	野菜類

・殺虫剤

IRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
-	アカリタッチ乳剤	散布	収穫前日まで	-	野菜類
11	エスマルク DF	散布	発生初期 (但し、収穫前日まで)	-	野菜類
-	(オンシツツヤコバチ) エンストリップ	放飼	発生初期	-	野菜類(施設栽培)
	ツヤトップ	放飼	発生初期	-	野菜類(施設栽培)
	ツヤトップ 2 5	放飼	発生初期	-	野菜類(施設栽培)
-	オレート液剤	散布	発生初期～収穫前日まで	-	野菜類(いちごを除く)
-	サンクリスタル乳剤	散布	収穫前日まで	-	野菜類(なす、トマト、ミニトマト、しゅんぎくを除く)
11	ゼンターリ顆粒水和剤	散布	発生初期 (但し、収穫前日まで)	-	野菜類(はくさい、キャベツを除く)
11	チューンアップ顆粒水和剤	散布	発生初期 (但し、収穫前日まで)	-	野菜類(トマト、ミニトマトを除く)
11	トアローフロアブル CT	散布	発生初期 (但し、収穫前日まで)	-	野菜類
	トアロー水和剤 CT	散布	発生初期 (但し、収穫前日まで)	-	野菜類(パセリ、えごま(葉)を除く)
11	バシレックス水和剤	散布	発生初期 (但し、収穫前日まで)	-	野菜類
-	プリファード水和剤	散布	発生初期	-	野菜類(施設栽培ただしいちごを除く)
-	粘着くん液剤	散布	収穫前日まで	-	野菜類

・殺虫剤 (参考農薬)

IRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
UN	ボタニガード ES	散布	発生初期	-	野菜類

注1) 使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決まっているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。

注2) 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「FRACコード」や「IRACコード」を参考にしながら他系統剤とのローテーション使用を心掛ける(「薬剤抵抗性管理」参照)。

注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

注4) 蚕毒・魚毒については、「56. 野菜類の総括注意」も参照する。

病害虫名 (F : 菌類病、B : 細菌病、V : ウイルス病、O : その他の病原体)

病害虫名	防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
うどんこ病 (F)	生育期間	1. サンクリスタル乳剤300～600倍液、カリグリーン、ハーモメイト水溶剤800～1,000倍液、ジーファイン水和剤1,000倍液のいずれかを散布する。	1. カリグリーン、ハーモメイトは発生初期に5～6日間隔で連続散布する。 2. 葉裏にも十分かかるように散布する。 3. ジーファインは高温多湿時に散布すると銅による薬害発生の恐れがある。 4. サンクリスタルはキャプタン水和剤及びQoI剤との近接散布(2週間程度)を避ける(薬害)。また、ナス、ピーマン、はくさい、チンゲンサイ等に使用する場合、幼苗期に葉先枯れを生じることがあるので使用を避ける。
軟腐病 (B)	生育期間	1. ICボルドー66Dの100倍液、Zボルドー500倍液、ドイツボルドーAの500～1,000倍液、コサイド3000の2,000倍液のいずれかを発病前から予防散布する。	1. 銅剤は高温時の散布で薬害を発生することがある。 2. 銅剤は、炭酸カルシウム水和剤(クレフノン)100～200倍液を加用すると薬害を軽減することができる。
コナジラミ類	発生初期	1. サンクリスタル乳剤300倍液を生息部位へ直接かかるように7日間隔で2回散布する。 2. プリファード水和剤1,000倍液を散布する。 3. オンシツツヤコバチ(エンストリップ等)を放飼する。エンストリップの放飼量は25～30株当りマミーカード1枚、その他のオンシツツヤコバチ製剤は放飼量を確認して使用する。 [参考農薬] 1. ボタニガードESの1,000倍液を散布する。	<プリファード、ボタニガードに関する共通事項> 1. 施設栽培に限る。 2. 昆虫病原性糸状菌を主成分とした微生物農薬である。効果の発現までには7日以上を要するので、オンシツコナジラミの発生初期から、7日程度の間隔で合計3回散布する。 3. 効果を発揮させるために、プリファードは散布後8～10時間、ボタニガードは15時間以上、温度18℃～28℃、湿度80%以上を確保するよう努める。夏期は夕方散布し、翌朝までハウスを閉め切るとよい。冬期は加温栽培でも温湿度条件が整い難く、効果が不十分な場合がある。 4. 一般化学農薬との混用はしない。各種農薬には本剤の効果に影響があるものがあるので注意する。影響のある薬剤は本剤の散布10日前～2日後までの間は使用しない。 5. プリファード、ボタニガードに対して高い殺菌活性を持つ薬剤があるので本剤の使用期間中に他剤を使用する場合は十分注意する(別表参照)。

病害虫名	防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
コナジラミ類	発生初期		<p><ボタニガードに関する事項></p> <ol style="list-style-type: none"> ボタニガードは蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。 5回以上の連続散布は、葉害が発生することがあるので注意する。 <p><オンシツツヤコバチに関する事項></p> <ol style="list-style-type: none"> 施設栽培に限る。 黄色粘着トラップなどを用いて成虫の初発を確認したら速やかにオンシツツヤコバチを放飼する。 オンシツツヤコバチは殺虫剤に弱いので、利用期間中は殺虫剤の散布を極力避ける。 農薬の散布に当たっては、天敵に影響の少ない薬剤を使用する(農薬の天敵等への影響の目安参照)。
コナガ	発生初期	<ol style="list-style-type: none"> トアロー水和剤CT、トアローフロアブルCT、バシレックス水和剤の1,000倍液、又はエスマルクDF、ゼンターリ顆粒水和剤、チューンアップ顆粒水和剤の2,000倍液を散布する。 <p>[参考農薬]</p> <ol style="list-style-type: none"> ボタニガードESの1,000倍液を散布する。 	<p><BT剤に関する注意事項></p> <ol style="list-style-type: none"> ゼンターリは、はくさい、キャベツに登録がある。 <p><ボタニガードに関する事項></p> <ol style="list-style-type: none"> 昆虫病原性糸状菌を主成分とした微生物農薬である。コナガの発生初期から7日程度の間隔で3～4回散布する。 効果を発揮させるために、降雨後や夕方など湿度を確保できる条件下で散布する。 ボタニガードに対して高い殺菌活性を持つ薬剤があるので、本剤の使用期間中に他剤を使用する場合は十分注意する(別表参照)。 5回以上の連続散布は、葉害が発生することがあるので注意する。 <p><共通事項></p> <ol style="list-style-type: none"> ボタニガード、BT生菌剤(バシレックス、エスマルク、ゼンターリ、チューンアップ)は蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。
アオムシ	発生初期	<ol style="list-style-type: none"> エスマルクDFの2,000倍液を散布する。 	<ol style="list-style-type: none"> BT生菌剤(エスマルク)は、蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。
オオタバコガ	発生初期	<ol style="list-style-type: none"> トアローフロアブルCTの500倍液、エスマルクDF、ゼンターリ顆粒水和剤の1,000倍液のいずれかを散布する。 	<ol style="list-style-type: none"> ゼンターリは、はくさい、キャベツに登録がある。 BT生菌剤(エスマルク、ゼンターリ)は、蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。
アブラムシ類	発生初期	<ol style="list-style-type: none"> オレート液剤100倍液を5～7日間隔で2回散布する。 	<ol style="list-style-type: none"> オレートは昆虫の気門を塞ぎ、窒息させて殺虫するので、虫体に直接かかるように散布する。 いちごは除く。
ハダニ類	発生初期	<ol style="list-style-type: none"> 粘着くん液剤100倍液、サンクリスタル乳剤300倍液、アカリタッチ乳剤1,000倍液を散布する。 	<ol style="list-style-type: none"> 昆虫の気門を塞ぎ、窒息させて殺虫するので、虫体に直接かかるように散布する。 多発時は5～7日程度の間隔で連続散布する。

注1) 葉害は、すべての品目に確認できていないので、使用に際しては十分留意する。

(別 表)

■各種農薬等がプリファード水和剤の防除効果に及ぼす影響

	影響が小さいもの	影響が大きいもの
殺菌剤	サルバトーレME、サンヨール EC、スミブレンドWP、スミレックス WP、ベルコート WP、フルピカ FL、ボトキラーWP、ポリオキシソール SP、ポリオキシソールWP、ランマン FL、ラリーWP、ルビゲン WP	アミスターFL、アリエッティCWP、オーソサイドWP、カリグリーン WP、キノンドーWP、クリーンヒッター、ゲッターWP、サブロール WP、イオウ FL、ジマンダイセン FL、ストロビーFL、セイビアーFL、ダコニール 1000、トップジンMWP、トリフミン WP、リドミルゴールド MZWP、ロブラール 500 アクア、Z ボルドーWP
殺虫剤	アカリタッチ EC、アクタラ SP、アドマイヤーWP、アフーム EC、アブロード WP、コテツ FL、コロマイト EC、ジノテフラン(アルパリン、スタークル)SG、スピノエース WDG、ダニトロン FL、ダントツ SP、チェス WP、トリガード WP、粘着くん LQ、バリアード WDG、バロック FL、プレオ FL、ベストガード SP、マイトコーネ FL、マシン油 EC、マブリック WP、モスピラン SP	アグロスリン EC、アディオン EC、エスマルク DF、オレート LQ、カスケード WP、カネマイト FL、サンマイト FL、ゼンターリ WDG、テデオン EC、トアローCTWP、ノーモルト EC、バシレックス WP、ハチハチ EC、ピラニカEW、マッチ EC、モレスタン WP、ロディーEC
展着剤	アプローチBI、スカッシュ、サブマージ、ミックスパワー(3000 倍)	ミックスパワー(1000 倍)、ニーズ
その他	パフォームCA(Ca 補給剤)、ダイサンゲン(光合成促進剤)	

略号 EC：乳剤、FL：フロアブル、LQ：液剤、SG：顆粒水溶剤、SP：水溶剤、WDG：顆粒水和剤、WP：水和剤
メーカー資料に基づき作成

■各種農薬がボタニガードESの防除効果に及ぼす影響

殺菌剤の影響			
薬 剤 名	影響の度合い	薬 剤 名	影響の度合い
アミスター20FL	×	ダコニール 1000	×(散布前3日◎)
アリエッティ WP	◎	デラン FL(1000倍)	◎
アントラコール WP(1000倍)	×	銅WP(水酸化第二銅)(1000倍)	◎
イオウ FL(1000倍)	◎	トップジンMWP(1000倍)	△
オーソサイド WP80(1000倍)	△(散布前4日◎)	トリフミン WP(1000倍)	△
カスミンボルドー	◎	バイコラル WP(1000倍)	○
ゲッターWP(1000倍/1500倍)	×	フルピカ FL(2000倍/3000倍)	○
サブロール EC(1000倍)	×(散布前2日◎)	ベルコート WP(2000倍)	△
サブロール EC(2000倍)	○	ベンレート WP(1000倍)	×
サルバトール ME(3000倍)	×	ベンレート WP(3000倍)	○
ジマンダイセン WP(600倍)	×	ポリオキシソル A L WP	◎
ジマンダイセン WP(1000倍)	×	有機銅 WP	○
ジャストミート WDG(2000倍/3000倍)	×	ラリーWP	×
ストロビーFL(3000倍)	△	ルビゲン WP	○
スマレックス WP(1000倍)	○	ロブラール WP(1000倍)	×
セイビアーFL(1000倍/1500倍)	×		
ダイファーWP	×(散布前4日◎)		
殺虫剤の影響			
薬 剤 名	影響の度合い	薬 剤 名	影響の度合い
エルサン EC	◎	デミリン WP	◎
オルトラン WP	◎	テルスターWP	◎
カルホス EC	◎	バダン S G SP	◎
除虫菊 EC	◎	マブリック WP	◎
スミチオン EC	×	マラソン EC	◎
ダイアジノン WP・EC	◎	ミクロデナボン WP	×
		ランネート WP	◎

影響の度合い ◎：0～25%（影響が小さい）、○：25～75%、△：75～90%、×：90～100%（影響が大きい）

略号 EC：乳剤、FL：フロアブル、LQ：液剤、SG：顆粒水溶剤、SP：水溶剤、WDG：顆粒水和剤、WP：水和剤
メーカー資料に基づき作成。